

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上戸祭小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり、その上で、家庭や地域と一緒に児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考え方から、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語、算数、理科、児童質問調査)

中学校 第3学年(国語、数学、理科、生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語	83人
② 算数	84人
③ 理科	84人

5 留意事項

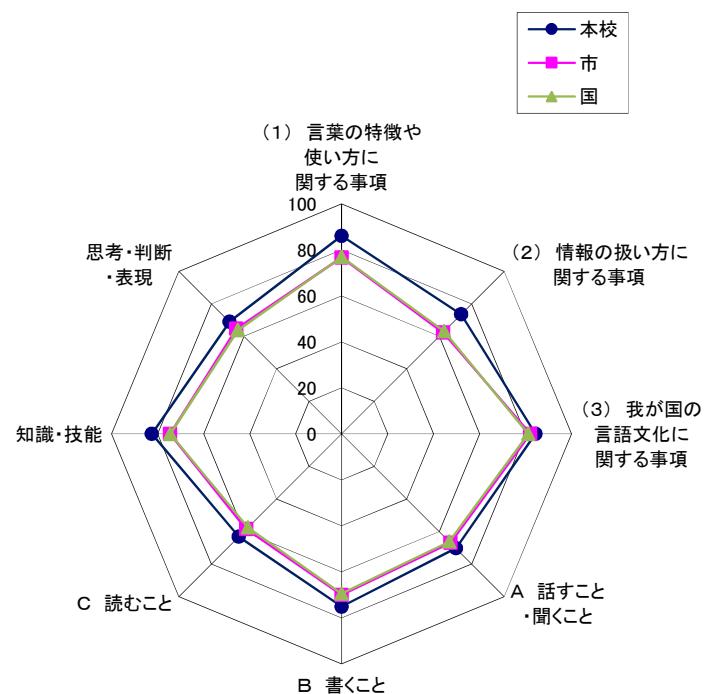
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上戸祭小学校第6学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	86.1	76.7	76.9
	(2) 情報の扱い方に関する事項	73.5	62.4	63.1
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	84.3	82.1	81.2
	A 話すこと・聞くこと	70.3	67.0	66.3
	B 書くこと	75.1	70.0	69.5
	C 読むこと	63.3	58.6	57.5
観点	知識・技能	82.5	74.5	74.5
	思考・判断・表現	68.9	64.6	63.8
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

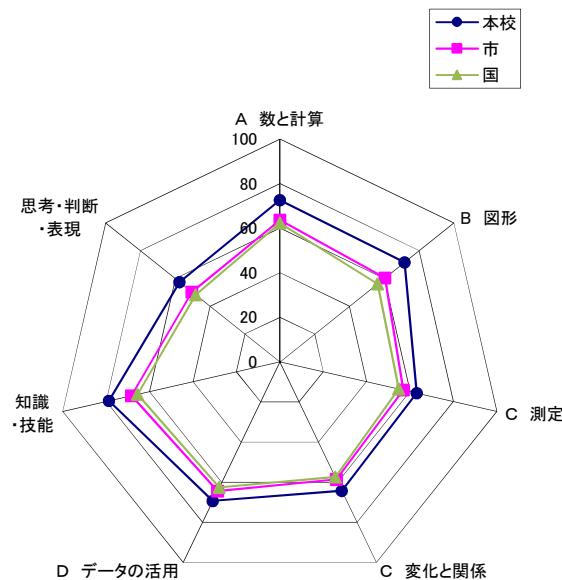
分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○領域の平均正答率は、86.1%で、市の平均を9.4ポイント上回っている。 ○漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る設問では、正答率が79.5%で市の平均より10.6ポイント上回っている。	・学習や生活を通して、文章を書く際に既習の漢字を必ず書くように意識させたり、漢字の反復練習や確認テストを行ったりしながら定着を図る。 ・意味調べや熟語調べ等を通して語彙を豊かにできるよう支援する。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○領域の平均正答率は、73.5%で、市の平均を11.1ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる設問では、正答率が73.5%で市の平均より11.1ポイント上回っている。	・今後も文章や資料を読み、目的に応じて情報を整理し活用する活動を意図的に入れる。 ・話し合いの記録や分かったことをメモする活動を意図的に取り入れながら指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○時間の経過による言葉の変化や世代による言葉の違いに気付くことができるかどうかをみる設問では、正答率が84.3%で市の平均より2.2ポイント上回っている。	・今後も読書の充実を図ったり、意味調べ等を行うことで語彙力を高め、相手の考え方の趣旨を捉えられるようにしていく。
A 話すこと・聞くこと	○領域の平均正答率は、70.3%で、市の平均を3.3ポイント上回っている。 ●話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめることができるかどうかをみる設問では、正答率が67.5%で市の平均より4ポイント下回っている。	・今後も目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討し、伝えたいことを明確にする活動を計画的に取り入れる。 ・自分の考え方と相手の考え方を比較した後、もう一度自分の考え方をまとめる活動を意図的に取り入れる。
B 書くこと	○領域の平均正答率は、75.1%で、市の平均を5.1ポイント上回っている。 ●図表などを用いて、自分の考え方を伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる設問では、正答率が79.5%で市の平均より3.3ポイント下回っている。	・今後も目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、自分の考え方を伝える活動を多く取り入れていく。 ・図表などの資料を効果的に活用しながら説明したり、資料と照らし合わせながら相手に伝わるプレゼンテーションしたりする活動を様々な教科で取り入れる。
C 読むこと	○領域の平均正答率は、63.3%で、市の平均を4.7ポイント上回っている。 ●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる設問では、正答率が36.1%で市の平均より6.5ポイント下回っている。	・根拠となる文章に線を引き資料と照らし合わせながら、読み取ったことを考え方伝える活動を取り入れていく。 ・叙述を基に、事実と考え方を区別しながら要旨を把握できるよう支援する。

宇都宮市立上戸祭小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	72.6	63.6	62.3
	B 図形	71.7	60.4	56.2
	C 測定	63.1	56.9	54.8
	C 変化と関係	64.3	58.6	57.5
	D データの活用	69.3	64.4	62.6
観点	知識・技能	78.7	68.3	65.5
	思考・判断・表現	57.5	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

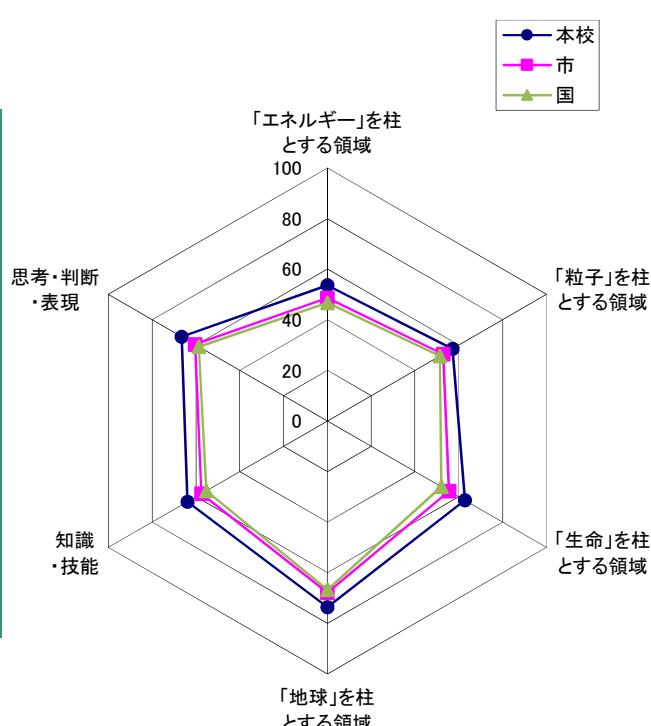
分類・区分	本年度の状況	○良好な状況が見られるもの	●課題が見られるもの
		今後の指導の重点	
A 数と計算	<p>○領域の平均正答率は、72.6%で、市の平均より9.0ポイント上回っている。</p> <p>○数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかを見る設問では、正答率が66.7%で、市の平均を22.5ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ドリルやプリント・AI型個別ドリルなどで、計算の練習に取り組み、基礎学力の定着を図る。 ・生活経験に根ざした身近な問題に取り組み、理解させることで教科としての有用性を実感させる。 ・ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、自分の考えを説明したり友達の考えと比較したりすることで、自分の理解を深められるようにする。 	
B 図形	<p>○領域の平均正答率は、71.7%で、市の平均より11.3ポイント上回っている。</p> <p>○基本图形に分割することができる图形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかを見る設問では、正答率が58.3%で、市の平均を16.2ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物の操作やICTの活用などを取り入れ、图形の持つ特徴を視覚的に理解できるようにする。 ・图形の面積や体積の学習では、考えの理由を記述したり説明したりする場面を多く取り入れることで、理解度を高める。 	
C 測定	<p>○領域の平均正答率は、63.1%で、市の平均より6.2ポイント上回っている。</p> <p>○はかりの目盛りを読むことができるかどうかを見る設問では、正答率が73.8%で、市の平均を10.2ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数以外の場面でも実際に道具を操作する機会を確保し、正しい目盛りの読み方や道具の使い方を身に付けられるようにする。 	
C 変化と関係	<p>○領域の平均正答率は、64.3%で、市の平均より5.7ポイント上回っている。</p> <p>○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかを見る設問では、正答率が50.0%で、市の平均を7.6ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数の学習だけでなく、他教科でも割合を取り入れて考える場面を増やして活用の幅を広げるとともに、割合について慣れ親しませる。 ・自分の考えを言葉や数を使ってノートに記述したり、友達に説明したりする活動を意図的に取り入れることで理解を深める。 	
D データの活用	<p>○領域の平均正答率は、69.3%で、市の平均より4.9ポイント上回っている。</p> <p>○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかを見る設問では、正答率が83.3%で、市の平均を7.6ポイント上回っている。</p> <p>●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかを見る設問では、正答率が35.7%で、市の平均を0.3ポイント下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が問題解決をする場面の中で、説明する活動を多く取り入れる。 ・社会科や総合的な学習の時間等においても、必要な数値を取り出して分類整理したり、数や大切な言葉を使って文章表現する活動を取り入れることで、データ活用能力を高める。 	

宇都宮市立上戸祭小学校第6学年【理科】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	53.6	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	57.1	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	62.8	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	73.6	67.9	66.7
観点	知識・技能	63.8	57.5	55.3
	思考・判断・表現	66.5	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の平均正答率は53.6%で、市の平均を5ポイント上回っている。 ○乾電池2つのつなぎ方について直列につなぎ電磁石を強くできるものを選ぶ問題では、正答率が67.9%で、ベルをたく電磁石について電流が作る磁力を強めるためコイルの巻き数の変え方を書く問題では、正答率が86.9%と高い数値を示し、市の正答率を上回っている。 ●アルミニウム・鉄・銅について電気を通すか、磁石に引き付けられるかそれぞの性質に当てはまるものを選ぶ問題では、市の平均正答率を上回っているものの正答率は14.3%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で予想したことを、実際に実験を行うことで検証したり、実験結果から生じた疑問についてさらに検証したりするなど、体験的活動を通してより理解を深められるようにしていく。 ・電気を通すものと通さないものを調べる際に、実験の結果を表などに分類・整理するなど電気の回路について考えたり説明したりする活動の充実を図るようにする。
「粒子」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の平均正答率は57.1%で、市の平均を4.3ポイント上回っている。 ○海面水位の上昇について、水の温度による体積の変化を予想しているものを選ぶ設問では、正答率が76.2%と高い数値を示し、市の正答率を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験結果を身の回りの自然や生活場面と結び付けて考えるようとする。
「生命」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の平均正答率は62.8%で、市の平均を7.3ポイント上回っている。 ○ヘチマの花のおしべとめしべについて選び、受粉について書く問題では、正答率が82.1%と高い数値を示し、市の正答率を上回っている。 ●レタスの種子の発芽の結果から、差異点や共通点を基に見いだした問題について書く問題では、市の平均正答率を上回っているものの正答率は44.0%と低くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察や実験の結果から、それぞれが考えたことを説明する活動を充実する。 ・それぞれの気付きを明確にし、差異点や共通点を基に、さらに問題点を見いだす場面を設定していく。
「地球」を柱とする領域	<ul style="list-style-type: none"> ○領域全体の平均正答率は73.6%で、市の平均を5.7ポイント上回っている。 ○水が陸から海へ流れていくことについて、水の行方と関連付いているものを選ぶ問題では、正答率が77.4%と高い数値を示し、市の平均を14.7ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業での学びを日常生活や他教科と結び付けて考えたり、生かしたりできるように支援する。 ・観察や実験の目的を明確にし、予想を立て必要な条件を考えたり、結果を基に考察したりする活動を丁寧に積み重ねることで、さらに思考力を高めるようにする。

宇都宮市立上戸祭小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(17)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか」の設問に対し、1時間以上と回答した児童の割合は78.1%で、県の割合を20.9ポイント上回っている。学校全体で、「かみとの家庭学習について」共通意識のもと、目標時間を「学年×10+10分」と掲げていたり、家庭学習カードを使用してポートフォリオを積み重ねたりするなどの取組みで家庭での学習習慣が定着してきている成果だと考えられる。今後も、家庭での取組を認め、称賛しながらより一層家庭学習の定着を図れるようにしていきたい。

○(28)「5年までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の設問に対する肯定割合は62%で、県の割合を25.1ポイント上回っている。授業や家庭学習などでタブレットを効果的に、継続的に使用していた成果であると考えられる。引き続き、タブレットを効果的に使用する学習活動の充実を図っていきたい。

○(56)「算数の授業で学習したことを、普段の生活に活用できていますか」の設問に対する肯定割合は92%で、県の割合を6.5ポイント上回っている。さらに、「算数の問題の解き方が分からぬときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の設問に対する肯定割合は90.8%で、県の割合を6.2ポイント上回っている。今後も習熟度別学習の充実を図り、「できた・分かった」を味わわせることで学習への興味・関心を高めていく。

○(算1)「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の設問に対する肯定割合は86.4%で、県の割合を10.4ポイント上回っている。上回っているポイント数は算数が一番多かったが、国語では7.4ポイント、理科では9.1ポイントとどの教科も上回っている。日頃から学校全体で、重点を置いて取り組んでいる「書く力の育成」の中で、根拠や理由を挙げながら、自分の考えを記述することができるよう学習活動を積み重ねてきている成果と考えられる。今後も、引き続きこのような学習活動の充実を図っていきたい。

●(23)「新聞を読んでいますか」の設問に対して、「ほとんど、または、全く読まない」と答えた割合は78.2%で、県の割合とほぼ同じではあるものの、不読率の高さが伺える。NIE教育と連携し、学校で様々な新聞記事に触れたり、目を通したりできるスペースを設けたり、各委員会による関連した新聞記事を紹介するコーナーを活用し、児童の新聞への関心を高めていきたい。

宇都宮市立上戸祭小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関する調査結果
自分の考えを深め、多様な方法で効果的に伝える児童の育成	・基礎的な知識の習得を図ることに加えて、指定された用語を用いて文章記述を行ったり、説明したりする活動を意図的に取り入れている。 ・一人一台端末を利用して、書いた文章を友達と読み合い、互いの良さを見付け、自分の表現に生かしていくようにしている。全学年で、継続的かつ計画的に取り入れている。児童の思考が深まるように、教師の発問や学習活動を工夫している。	・国語では、文章の要点を理解して、条件の字数に合わせて書くことができた。 ・自分と違う意見について考えることを楽しいと感じている児童が多い。 ・国語の「話すこと・聞くこと」の領域における正答率や、観点別に見た「思考・判断・表現」における正答率が、市の平均と比べて上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語では、話し手の考え方と比較しながら、自分の考え方をまとめることができるかどうかをみる問題の正答率が低い。 ・国語では、目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることができるかどうかという問題の正答率が低い。	・資料と関連付けて読み取ったり、考え方を記述したりする力の育成 ・考え方や求め方を、用語を正しく使って過不足なく書いたり説明したりする力の育成	・叙述を基に段落の内容を捉える問題では、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。 ・資料から分かることを書き出す活動や、読み取った事実から考えられることを考察する活動を取り入れる。 ・資料から目的に応じて情報を整理して活用する活動を、他教科で取り入れ、繰り返し行う。